

アンケート調査結果の傾向分析（※前回調査との比較等）

※前回調査：平成25年11月調査・平成26年3月報告

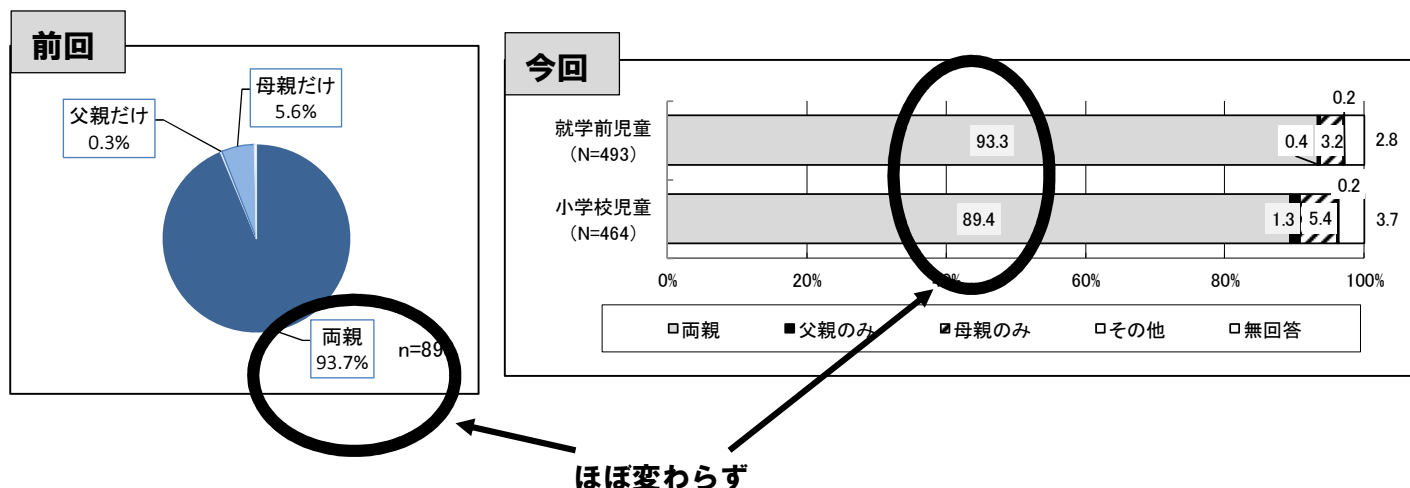
《 1. お子さんご家族の状況について》

● 子育て（教育を含む）を主に行っているのは、「父母ともに」が60%以上

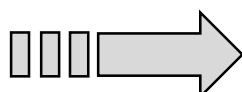
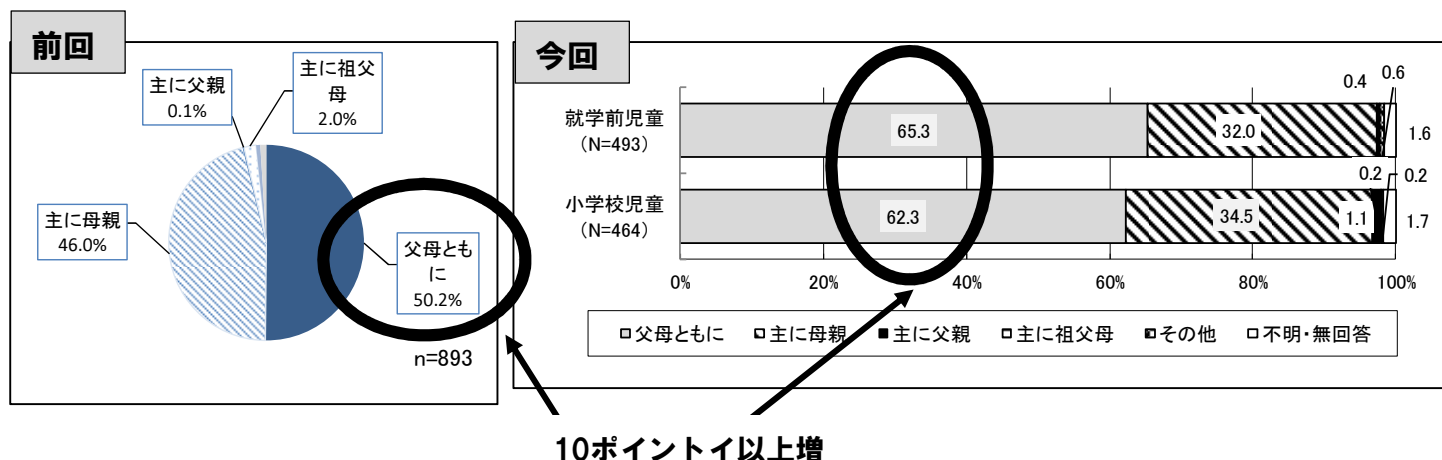
回答者の保護者は、「両親」が90%超と前回とほぼ変わりませんが、主な子育てを「父母ともに」行っているとの回答は10ポイント以上増加しています。「主に母親」と回答する層が減少し、父親も共に育てる意識が高まっていることがうかがえます。

※野洲市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果速報（以下同じ）【3ページ（4）・4ページ（5）参照】

<回答者の保護者>



<主な養育者>

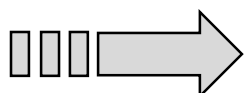
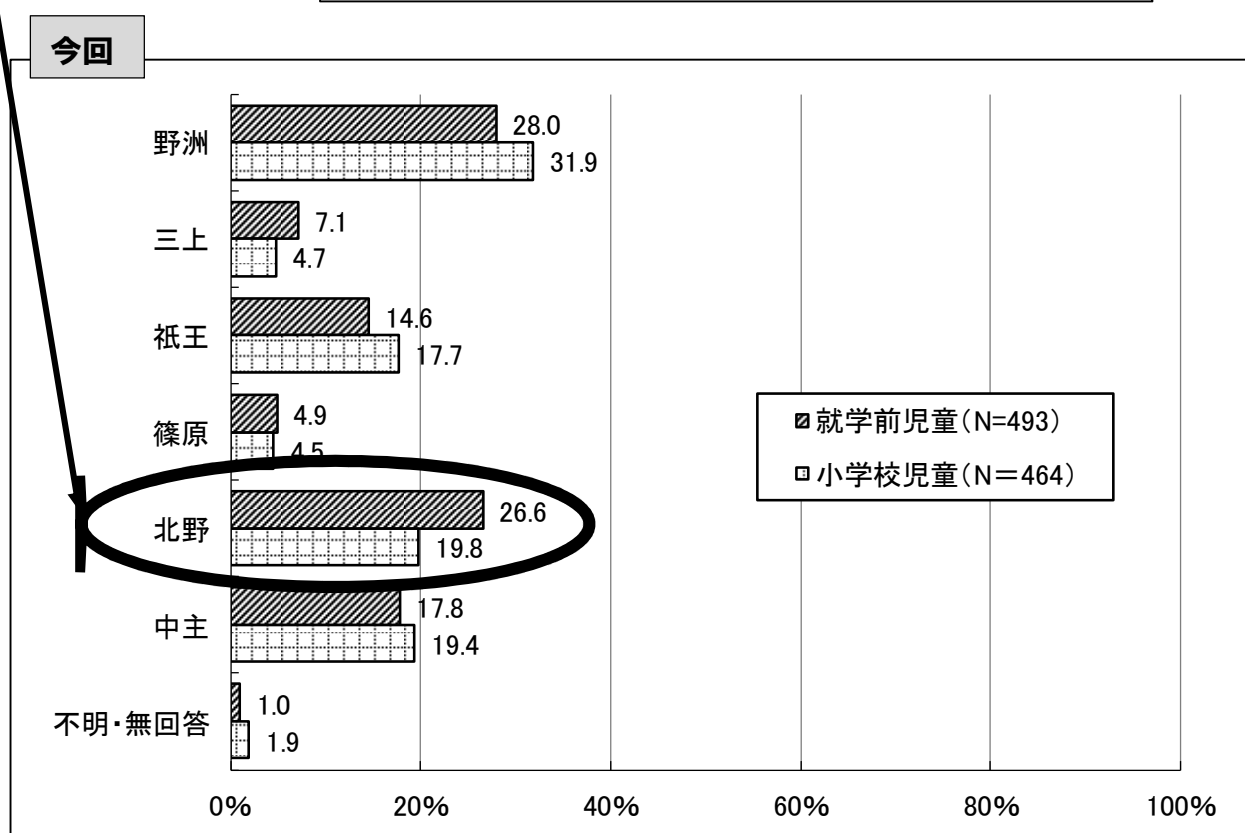
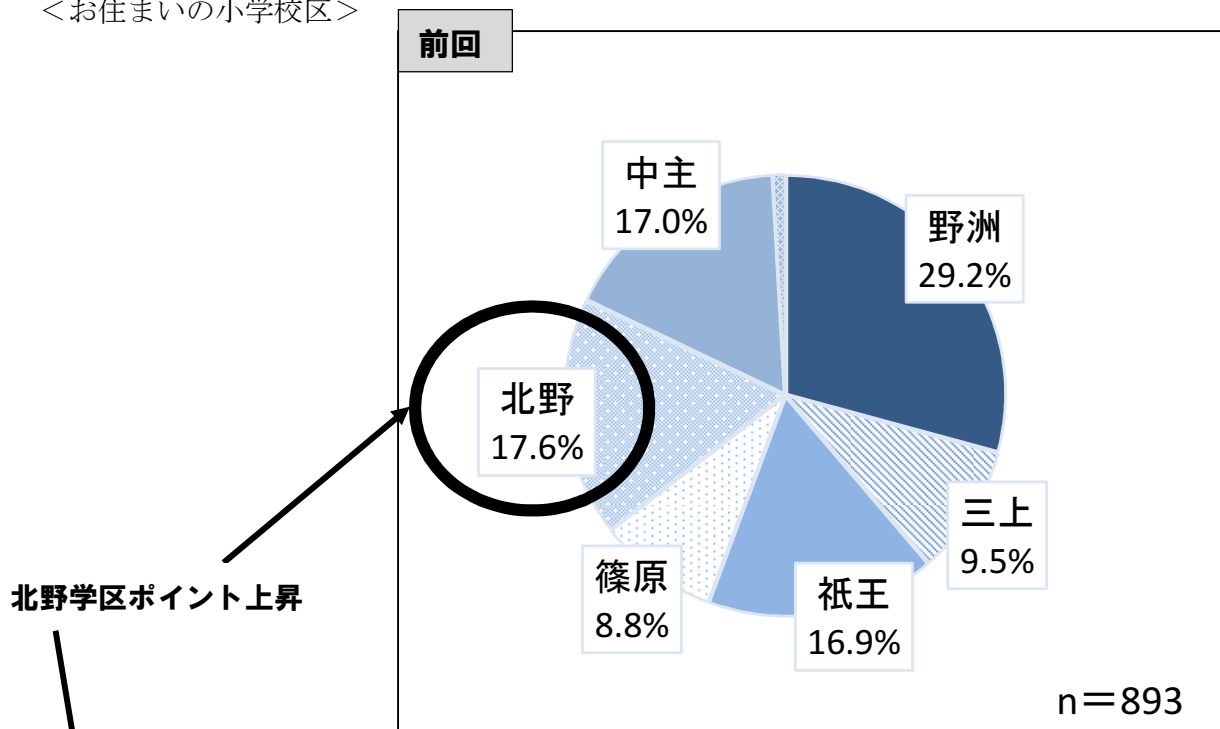


父親も共に育てる意識が高まっていることがうかがえます。

● 住んでいる地域（小学校区）は、1位「野洲」は変わらず、2位の「北野」が増加傾向

1位の「野洲」の回答割合は30%前後と変わらないものの、2位の「北野」は前回の17.6%から就学前児童26.6%・小学校児童19.8%となり、人口動態に応じた回答割合の増加がみられています。【4ページ（6）参照】

<お住まいの小学校区>

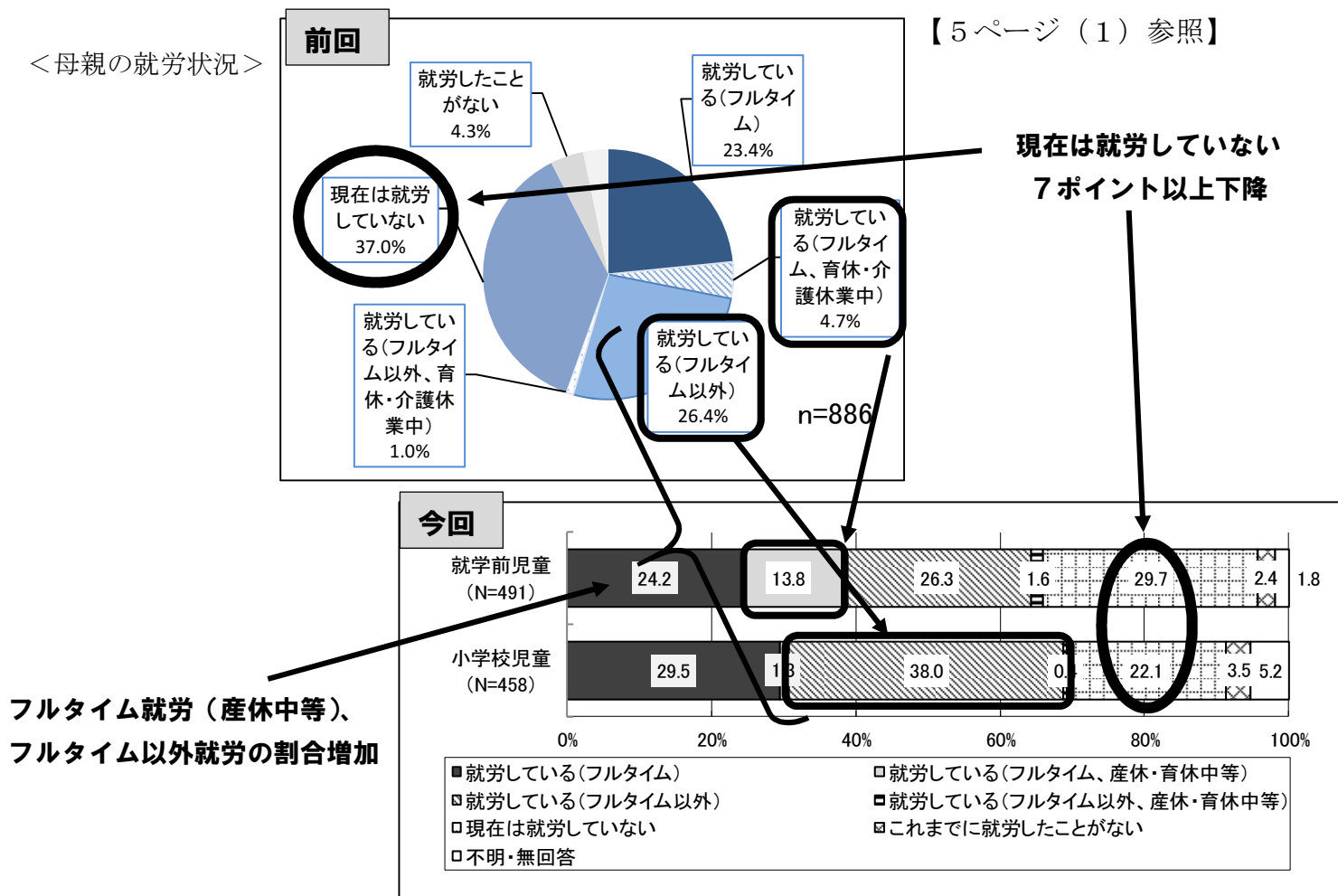


人口動態に応じた回答割合の増加がみられます。

<< 2. 保護者の就労状況について >>

● 母親の就労状況では、「現在は就労していない」、「就労したことがない」が減少

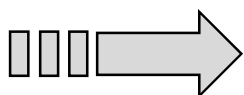
母親の「現在は就労していない」の回答割合は、前回の37.0%から就学前児童は29.7%・小学校児童は22.1%と大きく減少し、「就労したことがない」も前回の4.3%から就学前児童2.4%・小学校児童3.5%へとやや減少しています。その分、就学前児童では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中」の割合が、小学校児童では「フルタイム以外で就労している」の割合が増加しています。



● 就学前では両親共にフルタイム、小学校ではフルタイム・パートタイムの組み合わせが増加している

現在の家庭類型については、前回調査と比較すると、夫婦いずれかが家事専業（タイプD）が就学前児童・小学校児童ともに15ポイント近く減少しており、就学前児童では両親ともにフルタイム（タイプB）が約7ポイント増加、小学校児童ではフルタイムとパートタイムの組み合わせ（タイプC）が20ポイント近く増加しています。ひとり親（タイプA）については、小学校児童ではやや増加しているものの、大きな変化はみられていません。

【6 ページ参照】



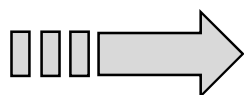
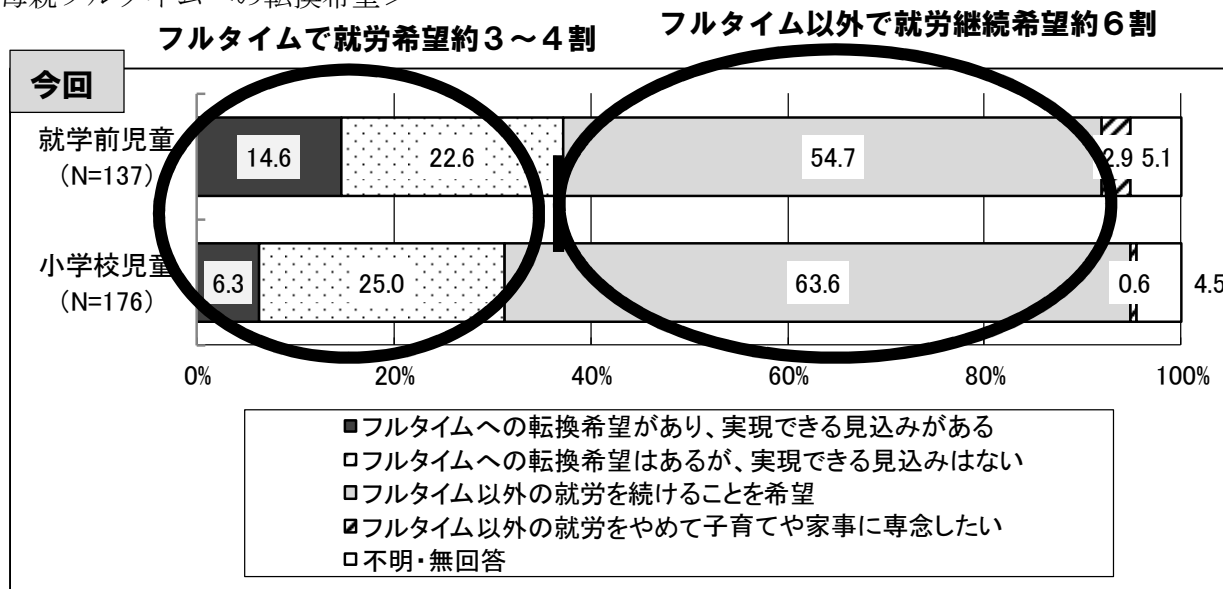
女性の就業率が高まり、保育需要が拡大していることを表す結果となっているほか、産休・育休を取得しやすい環境が形成されてきていることや、子どもが小学生になっても母親がフルタイムで就労するのは難しい状況も示唆しています。

● **フルタイム以外の母親は、「フルタイム以外の就労を続けることを希望」が最も多い**

パート・アルバイト等、フルタイム以外で就労している母親の「フルタイムへの転換希望」は、就学前児童で約40%、小学校児童で約30%あり、今後の保育需要の拡大や保育時間の延長につながるような意向が見られます。一方で、前回と同様、「実現できる見込みがない」の回答もその中の約20%を占めています。

最も多い回答は「フルタイム以外の就労を続けることを希望」で、就学前児童54.7%・小学校児童63.6%となっており、前回の64.2%よりは減少しているものの、依然として多数を占めています。 【7ページ(2)参照】

<母親フルタイムへの転換希望>



今後の保育需要の拡大や保育時間の延長につながるような意向が見られます。

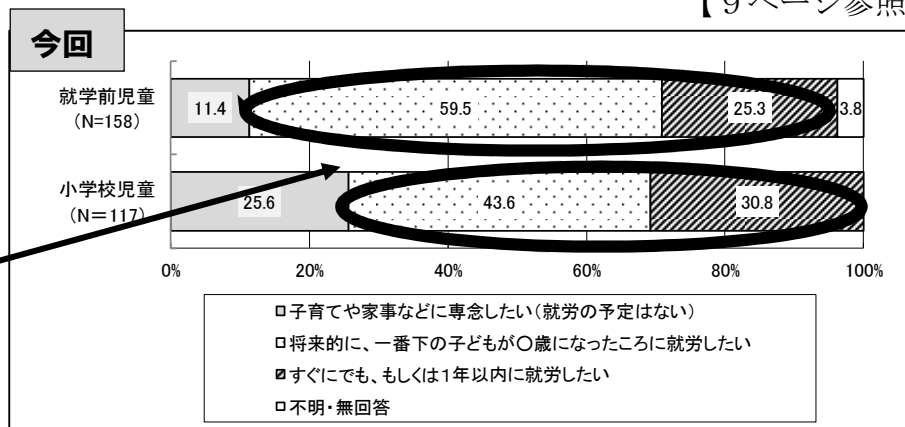
就労していない母親の75%以上が今後の就労を希望

現在、就労していない就学前の母親のうち、就学前児童の約85%、小学校児童の約75%が今後の就労希望を持っています。

また、就労していない母親の就労希望時期は、就学前児童では「将来、一番下の子が3歳になったら」、小学校児童では「将来、一番下の子が7歳になったら」が最も多く、それぞれ3割ほどとなっています。前回調査時よりも希望のバラつきが少ない結果となっています。 【9ページ参照】

<母親就労希望>

就労希望約7～8割超



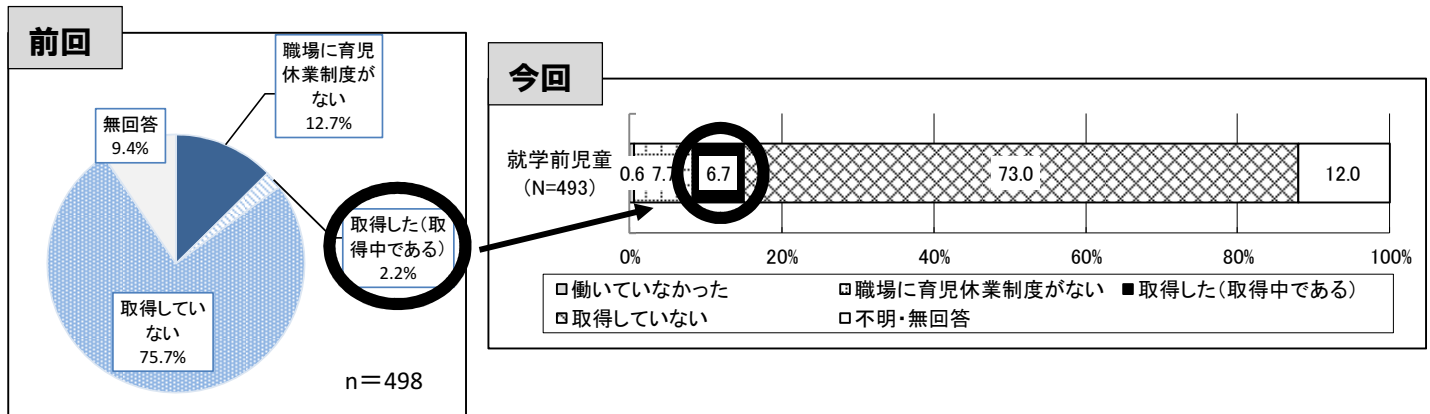
《 3. 育児休業制度など職場の両立支援制度について 》

- 育児休業は、就学前児童の母親、父親ともに「取得した（取得中）」が増加

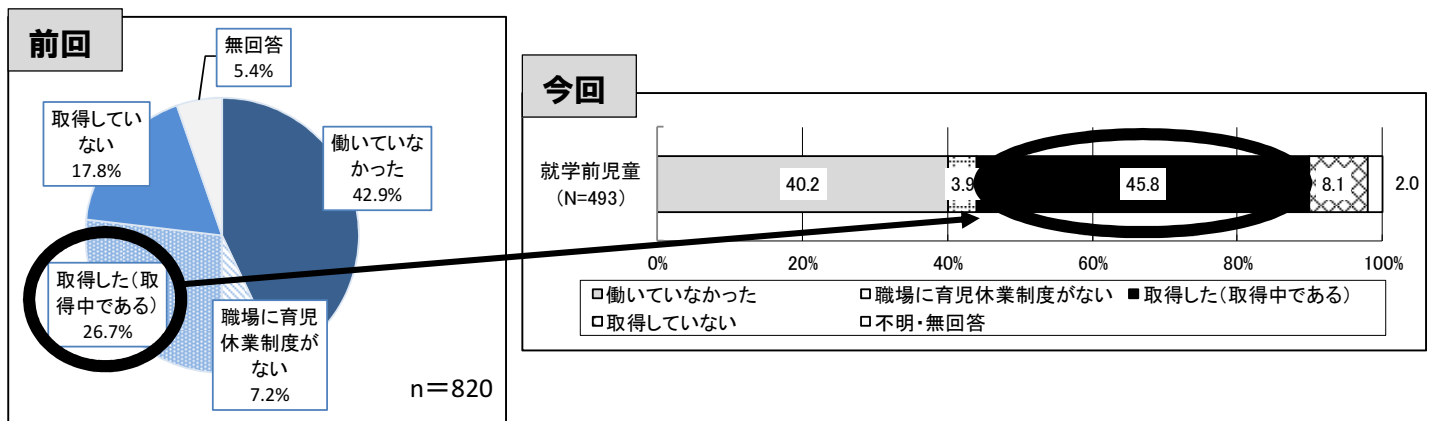
就学前児童の母親では、育児休業を「取得した（取得中である）」は45.8%で、前回よりも20ポイントほど増加しています。また、就学前児童の父親は6.7%で、前回より5ポイント近く増加しています。

【10ページ（1）参照】

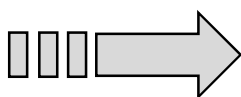
＜ 育児休業取得状況（父親） ＞



＜ 育児休業取得状況（母親） ＞



育児休業取得は父母ともにポイント上昇



育児休業取得ポイントが増えたことは就労している方が増加したとも考えられ、保育の需要の高まりを示唆。

- 両立支援のために必要なことは、就学前児童・小学校児童とも1位、2位は同じ

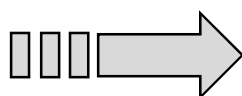
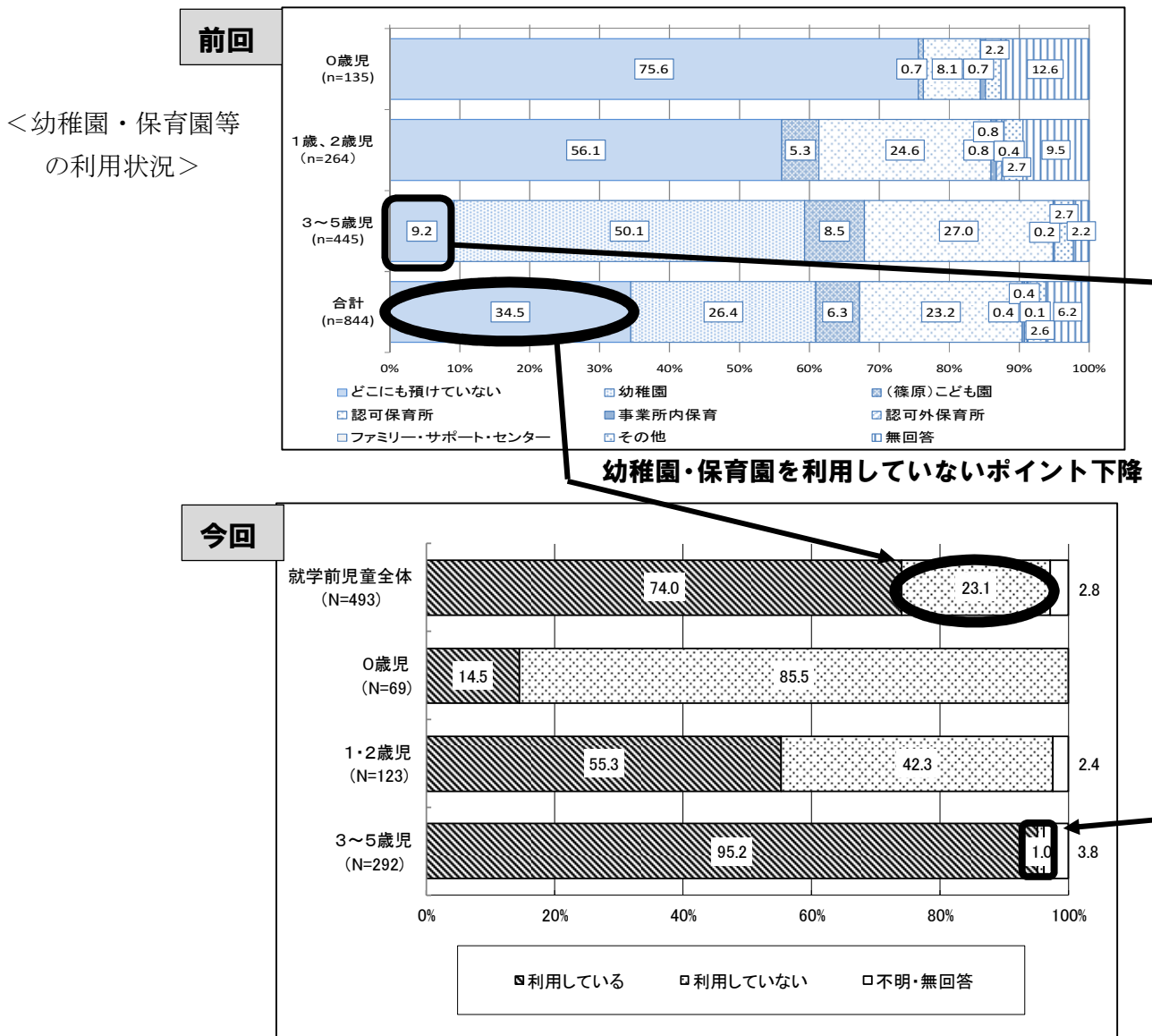
子どもを育てることと働くことを両立するために必要なことは、就学前児童、小学校児童ともに「配偶者が家事や育児を分担し、協力すること」が最も多く、次いで「子育てしている者に配慮した勤務時間制度などがあり、それが実際に活用できる職場環境」となっており、いずれも70%以上という状況です。

【11ページ（2）参照】

<< 4. お子さんの平日の幼稚園・保育園などの利用状況について >>

- 現在、幼稚園・保育園などを「利用していない」との回答は減少している

就学前児童では、現在、平日に幼稚園・保育園などを「利用していない」との回答は23.1%で、前回の34.5%より10ポイント以上減少しています。特に3～5歳児は、前回の9.2%から1.0%へと下がっています。【12ページ（1）参照】



幼稚園・保育園等の利用率の上昇、特に3～5歳児は9割超の利用となり、ニーズが高い。

- 平日に定期的に幼稚園・保育園などを利用している理由は、大きく2つに集約できる
 利用の理由としては、「子育てをしている者が現在就労しているため」（64.1%）、
 「子どもの教育や発達のため」（63.0%）の2つが大半を占めています。
 【15ページ（3）参照】
- 利用していない理由は「子どもがまだ小さいため」と「利用する必要がないため」が主
 利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため」（71.5%）、
 「利用する必要がないため」（38.6%）が上位2つとなっています。【16ページ（4）参照】

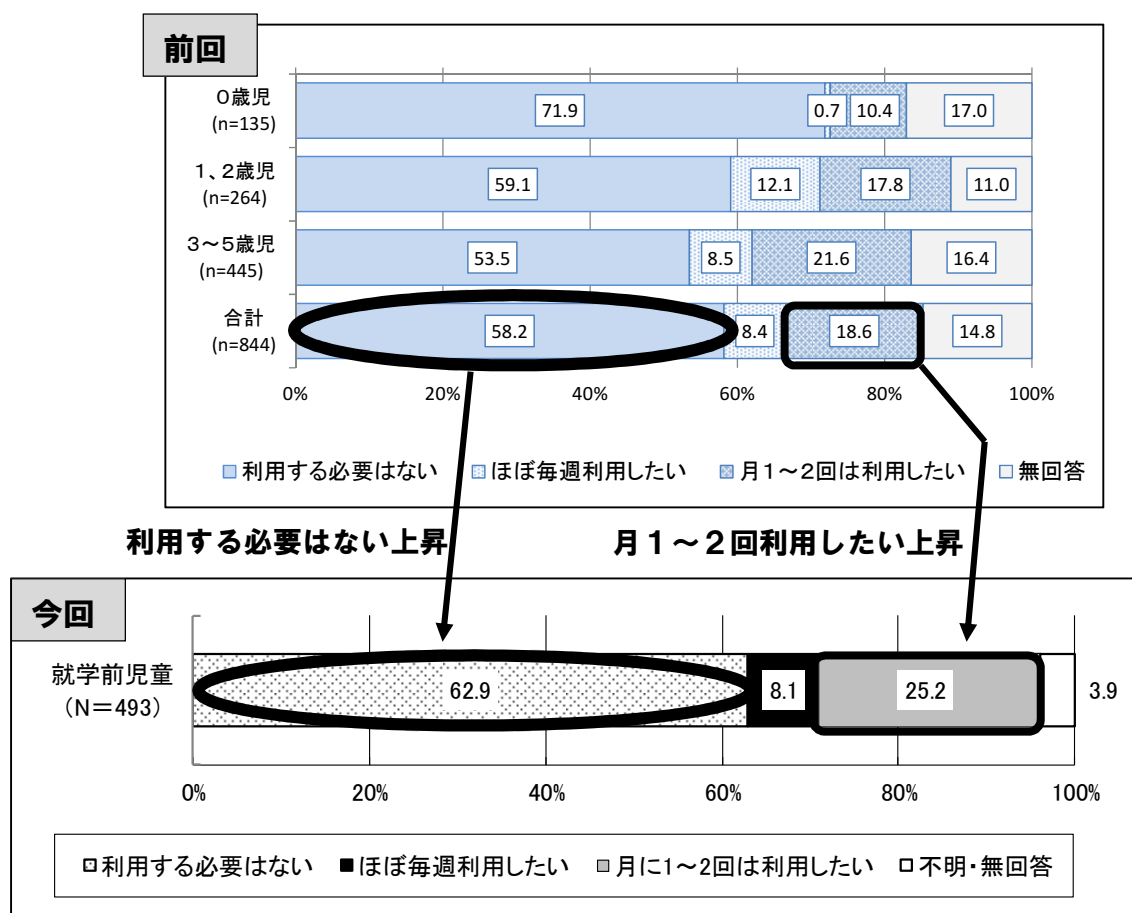
≪ 5. 就学前のお子さんの土曜・休日や長期休暇中の幼稚園・保育園の利用希望について 【就学前のみ】 ≫

- 土曜、日曜・祝日の幼稚園・保育園などの利用意向は若干の増加にとどまっている

前回調査と比較すると、土曜、日曜・祝日ともに「月に1～2回は利用したい」が数ポイント増加していますが、最も多い回答である「利用する必要はない」の割合も増加しています。

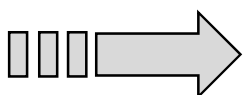
【21ページ（1）参照】

＜土曜の利用意向＞



※日曜・祝日の利用意向（N=844）

項目	前回	今回
利用する必要はない	50.1%	77.7%
月に1～2回は利用したい	9.8%	14.6%



利用する必要はないとしながらも、一定数の利用ニーズが見受けられます。

《 6. お子さんの病気の際の対応について 》

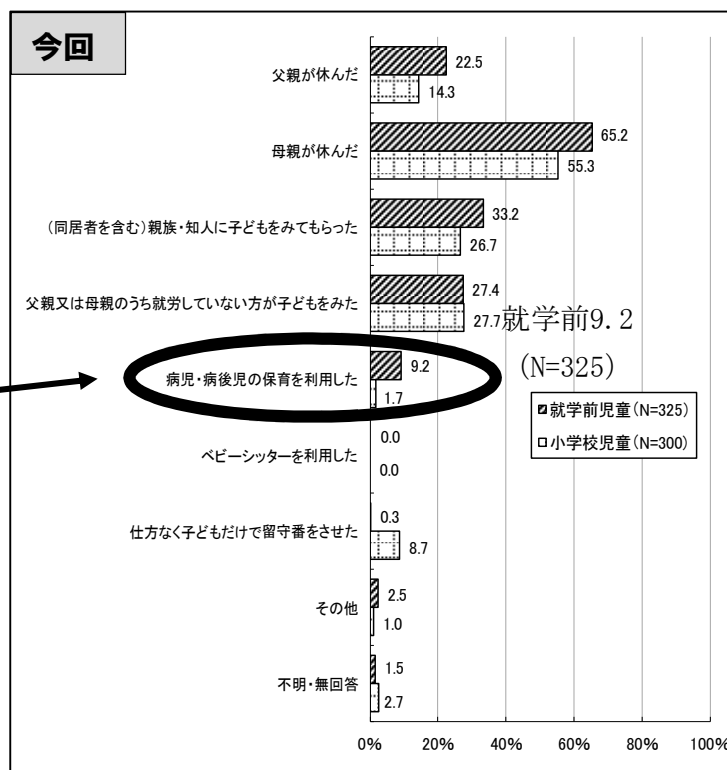
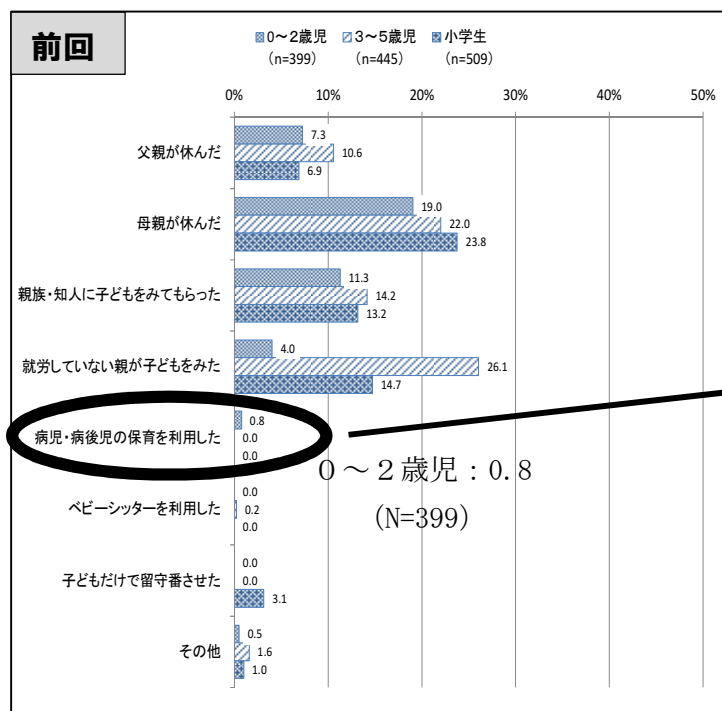
● お子さんが病気やケガで利用できなかった場合、「母親が休んだ」が60%前後

この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで幼稚園や保育園、小学校などへ行けなかったことが「あった」は、就学前児童・小学校児童ともに65%ほどと、前回より15ポイントほど増加しています。

その場合に行った対処方法としては、「母親が休んだ」が60%前後で最も多く、前回と比べると、「母親が休んだ」、「父親が休んだ」、「親族・知人に子どもをみてもらった」、「病児・病後児の保育を利用した」等、いずれの回答割合も増えています。

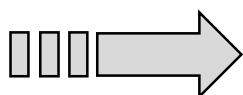
【23ページ（1）、24ページ（2）参照】

＜この1年間に、お子さんが病気やケガで通園・通学できなかったときの対処方法＞



病児・病後児の保育を利用したポイント 上昇

項目 (47ページ (11)、48ページ (12) 参照)	前回	今回
野洲市は子育てしやすいと思う回答者のうち 体調の悪い子どもを預けられる施設があると回答	0.7%	就学前児童 29.5% 小学校児童 19.6%
野洲市は子育てしやすいと思わない回答者のうち 体調の悪い子どもを預けられる施設がないと回答	35.4%	就学前児童 8.0% 小学校児童 9.2%



病児・病後児の保育を利用するニーズの増加が見受けられ、病児・病後児保育事業の実施による改善がうかがえます。

上昇

下降

《 7. 幼稚園・保育園などの不定期の利用や宿泊を伴う一時預かり等の利用について 》

- 私用、親の通院等の目的で不定期に利用している事業は「ない」が約90%

この1年間で、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業については、就学前児童・小学校児童ともに「利用していない」が約90%と大半を占めており、前回と同様の傾向となっています。【26ページ（1）参照】

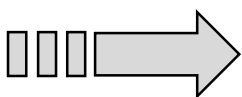
- 一時預かり保育等の利用意向は、就学前児童40.2%、小学校児童22.6%

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で一時預かり保育等を利用したいとの意向は、就学前児童40.2%、小学校児童22.6%で、両者にやや開きがみられます。「利用する必要はない」が50%以上と最も多い回答である点は、前回と同様です。

また、一時保育の利用目的としては、「私用、リフレッシュ目的」が約70%と最も多く、前回と同様となっています。【27ページ（2）参照】

- お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらったことが「あった」は約20%

この1年間に、保護者の用事によりお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことが「あった」は、就学前児童は18.9%、小学校児童は16.8%で、前回とほぼ同様となっています。対処方法も、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が最も多い点は変わっていません。【28ページ（3）参照】



一時預かり事業は大半が利用しておらず、また利用する必要はないが半数ほどであるものの、就学前児童では4割、小学校児童では2割強の利用意向がうかがえます。

<< 8. お子さんの放課後の過ごし方について >>

- 放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方では、「自宅」の希望が50%以上

今後、放課後（平日の小学校終了後）をどのような場所で過ごさせたいと思うかでは、「自宅」が最も多く、就学前児童が54.5%、小学校児童が74.1%となっています。

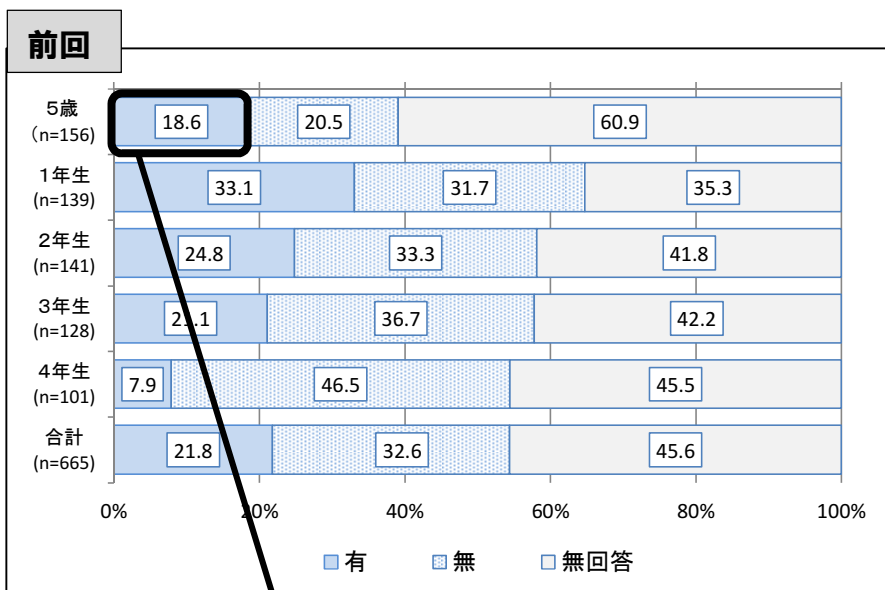
また、「学童保育」の利用希望は、就学前児童は53.5%、小学校児童は32.3%で、就学して以降は「屋外（友だち等と遊ぶ）」や「習い事」、「その他」などの希望も増え、学童保育の比重が下がっているといえます。

学童保育の利用希望では、通年保育（月～土曜）や季節保育は「小学校6年生まで利用したい」が最も多いものの、日曜・祝日の利用希望は合わせて20%未満となっています。

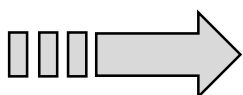
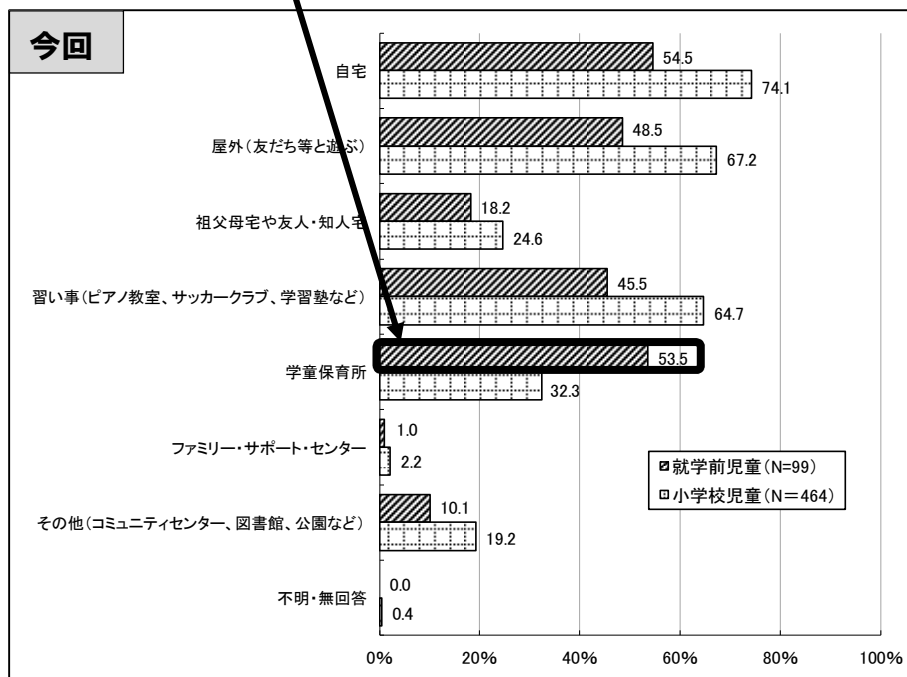
【29ページ（1）、30・31ページ（2）参照】

< 次年度の学童保育
利用意向 >

次年度から学童保育を利用する
年齢（5歳児）において、学童
保育を利用する割合が増加



< 放課後の過ごし方 >



新1年生における学童保育の利用ニーズが高まっていることがうかがえます。

《 9. 子育て環境について 》

- 妊娠期から出産期に対しての支援で望むことは、「経済的支援の充実」

妊娠期から出産期に対して望む支援は、前回（48.6%）に引き続き、「経済的支援の充実」が最も多く、回答割合は55.0%とさらに6ポイントほど増加しています。

【33ページ（2）参照】

- 子育て支援センターの利用状況は、「利用していない」が約80%

子育て支援センターは、「野洲」、「きたの」、「あやめ」、「その他の民間団体・施設が実施している事業」の順に利用割合が高く、順位と回答割合に前回との大きな差はみられません。

【33ページ（3）参照】

- 子育て支援センターの利用を増やしたい意向は、約25%

子育て支援センターを、今は利用していないができれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思うかでは、「利用していないが、今後利用したい」が14.2%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」が9.5%の約25%で、前回とほぼ同様の傾向となっています。

【34ページ（4）参照】

- 子育ての悩み、不安・負担、気になることは、就学前児童、小学校児童ともに「子どもが思うようにならないとき、イライラする」が40%以上で1位

子育てに関して、日頃悩んでいること、また不安や負担、気になることは、「子どもが思うようにならないとき、イライラする」が就学前児童は46.7%、小学校児童は41.8%で最も高くなっています。「子どもにとって、安全な遊び場が少ない」、「出産・育児にお金がかかりすぎる」も、前回に引き続き上位にあがっています。

【41ページ（6）参照】

- 子育てに関する悩みの相談先は、「配偶者」、「友人」、「祖父母等の親族」の順

子育てに関する悩みの相談先は、「配偶者」、「友人（子育て中の仲間など）や知人」、「祖父母等の親族」の順に高く、順位と回答割合は前回とほぼ同様となっています。その他では、「近所の人」の割合がやや低下し、保育園や医療機関がやや増加しています。

【43ページ（7）参照】

- 幼稚園や保育園などの施設・事業に望むことは、「友だちとのびのびと遊ぶこと」、「自然や社会などの多様な体験をすること」、「しつけや生活習慣を身につけること」

就学前児童では、「友だちとのびのびと遊ぶこと」が79.3%で最も高く、次いで「自然や社会などの多様な体験をすること」が74.8%、「しつけや生活習慣を身につけること」が66.9%で続いています。これらの3項目は、前回調査でも上位3項目になっています。
【45ページ（9）参照】

- 野洲市は、子育てをしやすいまちだと思う回答者は、60%以上

就学前児童、小学校児童ともに「どちらかというと思う」、「どちらかというと思わない」の順となっています。「思う」、「どちらかというと思う」の肯定的な評価を合わせた割合はいずれも60%以上で、割合は前回から大きな変化は見られません。
【46ページ（10）参照】

- 野洲市の子育てをしやすいところは、「子育て支援センターの充実」と「学童保育の充実」

子育てしやすいと感じるところは、就学前児童では「子育て支援センターが充実している（43.9%）」、「体調の悪い子どもを預けられる施設がある（29.5%）」の順、小学校児童では「学童保育が充実している（39.2%）」、「子育て支援センターが充実している（33.6%）」の順となっています。前は2位と評価の高かった「医療費助成制度が充実している」が10ポイント以上減少（25.0%→14.4%：就学前児童、10.5%：小学校児童）しています。
【47ページ（11）参照】

- 野洲市の子育てをしにくいところは、「医療費助成制度が充実していない」と「遊び場が充実していない」

子育てをしにくいと感じるところは、就学前児童、小学校児童ともに「医療費助成制度が充実していない（就学前児童：59.3%、小学校児童79.2%）」、「遊び場が充実していない（就学前児童：55.8%、小学校児童58.5%）」の順となっています。前回2位であった「体調の悪い子どもを預けられる施設がない」が20ポイント以上減少（35.4%→8.0%：就学前児童、9.2%小学校児童）しており、改善の状況がうかがえます。